



日本糖尿病・妊娠学会

一般社団法人

日本糖尿病・妊娠学会 ニューズレター

The Japanese Society of Diabetes and Pregnancy News Letter

2021年10月発行 Vol.23 No.2

第45号

第37回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会の見どころ

テーマ：インスリン発見から100年、『糖尿病と妊娠』治療～過去から未来へ～

会期：2021年11月27日(土)・28日(日)

会場：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター(グランフロント大阪内)



第37回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会

和栗 雅子

大阪府立病院機構
大阪母子医療センター
母性内科主任部長

2021年11月27日(土)、28日(日)に開催する第37回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のプログラム、見どころをご紹介します。学会場は、JR大阪駅に直結する複合商業施設であるグランフロント大阪内に位置し、遠方からも参加しやすい場所です。会場・Webのハイブリット開催を予定しています。

今年は1921年にインスリンが発見されてから100年となる年ですので、テーマを「インスリン発見から100年、『糖尿病と妊娠』治療～過去から未来へ～」とし、インスリンをはじめとした治療法の過去からの変遷、現在の課題、未来への期待を中心に構成しました。特にグルコースモニタリング(SMBG、CGM/FGM)、インスリンポンプ(CSI/ SAP)等の進歩はめまぐるしく、糖代謝異常妊婦の厳格な血糖管理を遂行するためのデバイスとして有用と考えますが、十分に使いこなせていない場合もあるように思います。そこで、『インスリン治療を活かす最新の機器・手法のコツ』をテーマとしたシンポジウムを企画しました。

また、2021年3月に日本産科婦人科学会から、周産期データベースの解析を基に「妊娠中の体重増加指導の目安」が策定されました。糖代謝異常妊婦の場合も当てはまるかは検討が必要であり、GDM、糖尿病合併妊娠に関して、単施設あるいは多施設でのデータを基に検討し

た結果等も合わせ、内科、産科、栄養士の立場から『糖代謝異常妊婦の体重管理を考える』をテーマとしたシンポジウムも企画しました。

海外特別講演は、1型糖尿病妊婦におけるCGMデータを用いたCONCEPT trialでも御高名な英国East Anglia大学の

Helen R. Murphy 教授のご講演をオンデマンド配信します。

母性内科学会合同特別企画として、『糖代謝にも関わる内科合併症をもつ女性の妊娠～母性内科の視点から～』をテーマに甲状腺・循環器・腎疾患、不妊・不育症、妊娠と薬情報のエキスパートからの講演、教育講演として『With コロナ時代の妊娠と出産』『臨床研究における統計解析～臨床統計と仲良くなるために』、CLOCMiP 必修研修・選択研修も予定しています。

一般演題は、ポスターも予定していましたが、発表時の密を避けるため口演発表のみとさせていただきました。1日目の夕方に『オンライン懇親会』(ゲスト：中新井美波さん [from 1-GATA・歌手/元陸上選手])、2日目の午後には大阪糖尿病協会顧問医会と共催で『公開シンポジウム』(糖尿病と妊娠に関する話題提供、妊娠・出産・育児体験談)も予定しています。

現在鋭意準備を進めておりますので、本学会員の皆様だけでなく様々な分野の方々のご参加をお待ちしています。

The 37th Annual Meeting of
The Japanese Society of Diabetes and Pregnancy
**第37回
日本糖尿病・妊娠学会
年次学術集会**
インスリン発見から100年
『糖尿病と妊娠』治療～過去から未来へ～
会期 2021年11月27日(土)・28日(日)
会場 グランフロント大阪(JR大阪駅直結)北館 B2F
ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター
会長 和栗 雅子
大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 母性内科 主任部長
海外特別講演：「CONCEPT trial」 Helen R. Murphy (University of East Anglia, UK)
シンポジウム：「糖代謝異常妊婦の体重管理を考える」
「インスリン治療を活かす最新の機器・手法のコツ」
教育講演：「糖尿病・妊娠」 WACOG 時代別胎内胎外胎児
臨床研究における統計解析～臨床統計と仲良くなるために～
母性内科学会合同特別企画：「糖代謝にも関わる内科合併症をもつ女性の妊娠」
～母性内科の視点から～ (甲状腺/腎/循環器/不妊・不育/妊娠と薬)
CLOCMiP 必修研修、DreamBee Study 報告
妊娠糖尿病既往女性のフォローアップに関する診療ガイドライン
公開シンポジウム：「糖尿病と妊娠」 大阪糖尿病協会 顧問医会 共催
▶ <https://dm-net.co.jp/jsdp/annual-meeting/37.php>
◆主催機関 ◆ 会期 ◆ 11月 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 母性内科
◆ 会場 ◆ 〒552-8583 神戸市東灘区東灘6-4-22 大阪駅直結 北館 B2F
◆ 問い合わせ先 ◆ Email: jsdp37@conventionlab.net

今回はオンラインによる事前参加申し込みとなります。学術集会と公開シンポジウムのそれぞれでお申込ください。詳細は学会HPをご参照ください。

第38回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のご案内

テーマ：母児を守り・育む連携～糖代謝異常妊娠を越えて～

会期：2022年11月4日(金)・5日(土)

会場：両国KFC Hall& Rooms(東京都)



第38回日本糖尿病・
妊娠学会年次学術集会長

板倉 敦夫

順天堂大学医学部
産婦人科学講座 教授

第38回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会は順天堂大学産婦人科学講座で担当させていただきます。会場は東京両国にありますKFC Hall & Roomで、会期は2022年11月4日(金)・5日(土)を予定しております。第37回ではインスリン発見から100年を記念して、糖代謝異常妊娠の予後を劇的に改善させたインスリンに焦点が当てられます。インスリンが実臨床で使用されたことで、1型糖尿病女性の妊娠が可能となり、2型糖尿病、妊娠糖尿病の管理の向上にも貢献し、多くの命を救い、新しい命の誕生を支えることができました。他方、生活指導は2型糖尿病、妊娠糖尿病管理の基本です。妊娠は女性にとって生活改善の最適な動機であるとされ、栄養指導の遵守が高まるだけでなく、妊娠中に経験したよい生活習慣を出産後も継続させるようにサポートすることで、2型糖尿病女性の生活の質を改善させ、妊娠糖尿病女性の2型糖尿病発症予防につながる事が期待されます。プレコンセプション・ケアは従来からの強化インスリン療法に加え、最近では葉酸投与や妊娠前からの生活習慣の改善の推奨などに広がりを見せています。こうした生活指導やサポートに関連する最近のトピックを2つ紹介します。1つは、妊娠中の体重増加量の目安が本年4月に改訂され、増加量の目安は以前の推奨より多くなりました。早産、低出生体重児、巨大児などの周産期に発生するイベント発生リスクを最小限に抑制するた

めの体重増加量の目安が、日本産科婦人科学会から公表され、厚生労働省もこれを採用して「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針」に掲載しています。糖代謝異常妊娠の生活指導にこの変更をどのように活かすかは、今後議論が必要と考えます。次に本学会が中心となり、妊娠糖尿病分娩後のサポートに関するガイドラインが現在作成されています。本学術集会はこれを周知させる機会となり、よりよい活用法についても議論されると思います。糖代謝異常の管理には多職種連携によるチーム医療が重要であることが知られていますが、糖代謝異常妊娠には妊娠前・妊娠中・産後・児の発育といった時間軸に沿って変化していく連携によるチーム医療が必要です。この多彩な連携は今後も発展していくことでしょう。本学術集会では、インスリン療法によって救われた母児をこの連携を基盤とする生活指導サポートによって、生活の質を改善し、健全に育むために我々がなすべきことについて議論したいと思います。そこで第38回学術集会では、テーマを「母児を守り・育む連携～糖代謝異常妊娠を越えて～」として、プログラムを構成したいと考えます。

会場は東京の下町情緒を味わうことができる両国で、会場は地下鉄大江戸線に直結しており、大変便利な場所にあります。COVID-19のパンデミックの収束は予想できませんが、face-to-faceは、医学・医療の発展を目指す学会には不可欠と考えます。多くの笑顔が集まる学会にしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

国内関連学会開催日程

第65回日本糖尿病学会年次学術集会

テーマ：知の輝きと技の高みへ一人の集いがつくる明日の糖尿病学—
2022年5月12日(木)～14日(土)
会 長：小川 渉(神戸大学大学院医学研究科内科学講座糖尿病・
内分泌内科学部門)
会 場：神戸ポートピアホテル、神戸国際展示場、神戸国際会議場
公式ホームページ：https://site.convention.co.jp/65jds/

第27回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会

2022年7月18日(月・祝)
会 長：神野 和彦(県立広島病院)
会 場：アルカティア市ヶ谷(予定)

トピックス



上塘 正人

鹿児島市立病院産婦人科

妊娠糖尿病の発症機序における免疫寛容システムの関与

胎児は母体にとって同種移植片であり父由来の抗原性をもっている。成熟児を得るためにはこの移植状態を 38 週間継続しなければならないが、その成立や維持過程において、脱落膜 NK 細胞 (dNK) や制御性 T 細胞 (Treg) が果たす役割は大きい。dNK は母体螺旋動脈の絨毛細胞による再構築を誘導し、絨毛組織は IL-2 や TGF β を脱落膜内に分泌し Treg を誘導する。結果、免疫寛容を獲得し妊娠が継続される¹⁾。Treg は feto-maternal interface である脱落膜に多数存在し、胎児を母体の過剰免疫から保護し、陣痛発来まで妊娠状態を維持している。最近、この Treg の発現不足が妊娠糖尿病発症に関与するとの報告がある。リンパ組織形成に重要なサイトカイン受容体の 1 つに RANK²⁾ があるが、この受容体の母体胸腺髄質上皮 (mTECs) における発現異常が Treg 不足につながっているという報告である³⁾。RANK の発現低下は mTECs 自体の増殖を低下させ、髄質形成や正の選択による Treg 産生を抑制する。その結果、胎盤および内臓白色脂肪細胞 (VAT) において Treg が減少し炎症誘発状態となる。このため炎症性サイトカインなどが増加し、VAT

のグルコース取り込み障害が生じ、結果としてインスリン抵抗性増加、妊娠糖尿病を発症すると考えられている。実際、RANK ノックアウトマウスにおいて、インスリン分泌には異常が見られなかったが、インスリン抵抗性増加や胎児 macrosomia が観察され、正常妊娠マウスの Treg 移植によって改善した。妊娠糖尿病は胎盤から放出されるホルモンがインスリンの作用に拮抗することによって起こるとされるが、インスリン抵抗性発現の原因の 1 つに中枢性 Treg 産生の異常があることが示され興味深い。

- 1) Rajagopalan S, Long EO : Cell atlas reveals the landscape of early pregnancy. Nature, 563 : 337-338, 2018. doi: 10.1038/d41586-018-07317-w
- 2) Dougall WC, Glaccum M, Charrier K, et al. : RANK is essential for osteoclast and lymph node development. Genes Dev, 13 (18) : 2412-2424. doi: 10.1101/gad.13.18.2412. PMID: 10500098; PMCID: PMC317030.
- 3) Paolino M, Kogelgruber R, Cronin SJF, et al. : RANK links thymic regulatory T cells to fetal loss and gestational diabetes in pregnancy. Nature, 589 : 442-447, 2021. <https://doi.org/10.1038/s41586-020-03071-0>

海外関連学会開催日程

42th Annual Pregnancy Meeting

2022年1月31日(金) ~ 2月5日(水)

会場:アメリカ フロリダ オールランド

公式ホームページ:<https://coatconnect.com/medical-conferences/society-for-maternal-fetal-medicine-smfm-42nd-annual-pregnancy-meeting>American Diabetes Association (ADA)
82th Scientific Sessions

2022年6月3日(月) ~ 7日(金)

会場:アメリカ ニューオリンズ

公式ホームページ:<https://professional.diabetes.org/scientific-sessions>DIP2022 : The 11th International Symposium on
Diabetes, Hypertension, Metabolic Syndrome and
Pregnancy:
Innovative Approaches in Maternal Offspring Health

2022年4月27日(水) ~ 30日(土)

会場:ギリシャ テッサロニキ

公式ホームページ:<http://dip.comtecmed.com>

トピックス

柳澤 慶香

東京女子医科大学糖尿病センター

糖尿病とスティグマ

近年、糖尿病臨床ではスティグマとアドボカシーが注目され、「糖尿病治療ガイド 2020-2021」では治療の目標にスティグマの除去が掲げられた（図）。2019 年日本糖尿病協会と日本糖尿病学会は糖尿病患者の社会的立場や権利を守るため、合同でアドボカシー委員会を設置した。

スティグマは「恥・不信用のしるし、不名誉な烙印」という意味をもち、ある特定の属性に所属する人に対して、誤った知識や情報により否定的な価値を付与することである。糖尿病に関しては、食べ過ぎや自己管理能力の欠如のため糖尿病になった、糖尿病があると様々な合併症を起し寿命は10年短くなる、などの誤った情報が社会に溢れている。このため、糖尿病患者は就職や結婚などの社会生活で不利益を被り、患者自身も社会からの疎外感を感じ、自尊心が低下

する。周囲から糖尿病であることを隠すようになり、引いては糖尿病治療にも悪影響を及ぼす。

妊娠糖尿病ではどうであろうか？妊娠糖尿病患者の中にも、妊娠糖尿病の診断やインスリン療法をなかなか受け入れられない人がおり、スティグマが影響している可能性がある。妊娠糖尿病は「全妊婦の1割近くに達するともいわれ、誰にでも起こり得る」「自己管理の不足が原因でなく、遺伝要因や加齢などの環境要因が関連している」「周産期合併症のリスクは高いが、適切な管理で予防できる」疾患である。しかし、妊娠糖尿病という疾患自体、世間での認知度が低いため、糖尿病と同様にスティグマを生んでいる恐れがある。妊娠糖尿病の治療を適切に行うためには、妊娠糖尿病の正しい知識を患者や社会に広く知ってもらう必要がある。妊娠糖尿病妊婦が、会社で堂々と分食が食べられる、隠すことなくインスリン注射を打てるような世の中を目指した活動が必要であろう。

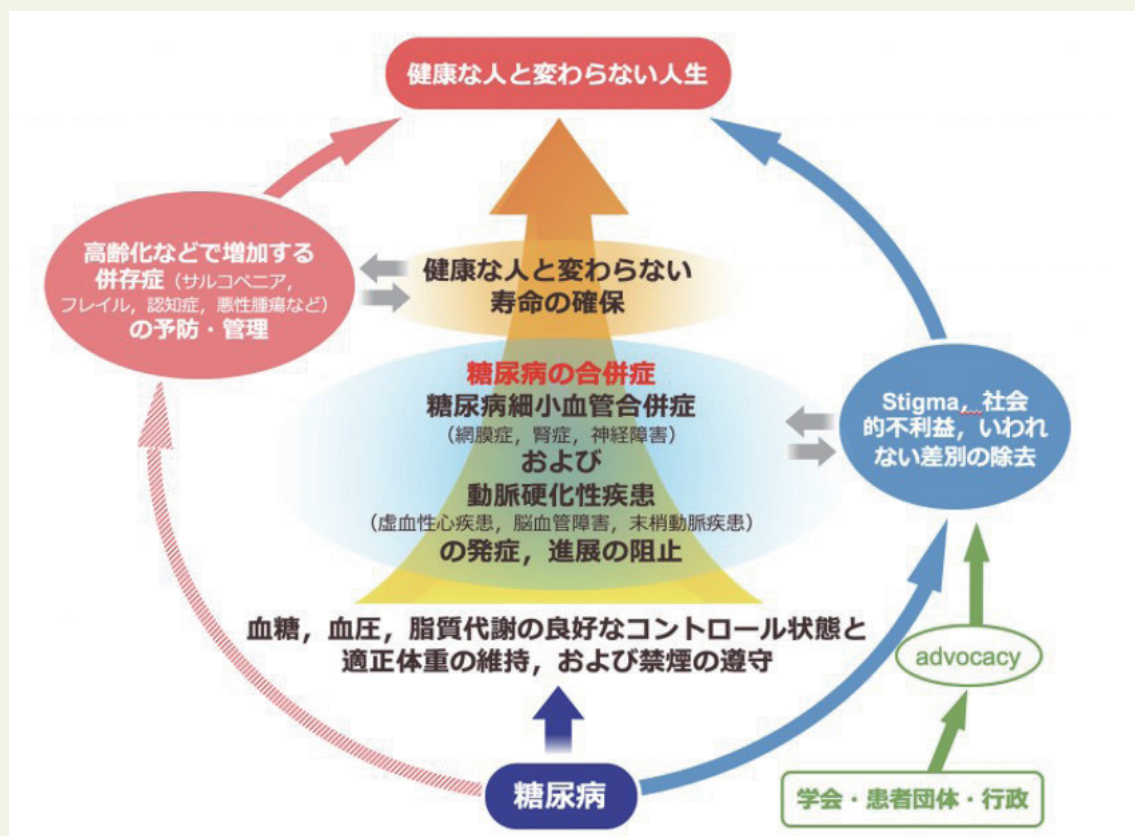


図 糖尿病治療の目標
日本糖尿病学会編・著 糖尿病治療ガイド 2020-2021、p 31